

美的好奇心をあそぶプロジェクト ークリエイティブな学びを実現する空間づくりー

日時：2017年10月19日(木) 19時00分～21時

場所：ワコールスタディホール京都

ワコールスタディホール京都は、見た目だけでなく、感性や知性など内面の美しさに加え、社会のありようまで美しくなることを目指して、「美」を学ぶ創造的な空間として2016年10月に京都駅前に開設され、2017年10月に1周年を迎えます。

2016年からワコールスタディホール京都とNPO法人ミラツクで取り組む、女性のための創造的な学習空間を生み出すためのプロジェクトの一環として、10月19日に「クリエイティブな学びを実現する空間づくり」をテーマとしたセミナーを開催しました。

■第1部 「クリエイティブな学びが生まれる空間とは?!」



日建設計 NAD チーフ (室長)

早稲田大学工学部大学院修了後、株式会社日建設計に入社。東京スカイツリータウンなどの設計業務に携わった後、2013年に「アクティビティ (=空間における人々の活動) が社会を切り拓く」というコンセプトを掲げた領域横断型デザインチームNADを立ち上げる。

近作は羽田クロノゲート、仙川キューポート、ポピンズナーサリースクール、東京インターナショナルスクール、ほか多数。

NIKKEN SEKKEI ACTIVITY DESIGN Lab(<http://www.nikken.jp/ja/nad/>)

参考記事: 世界最大級の建築事務所に学ぶ チームの「強み」が活きる仕組みづくり | 月刊「事業構想」2016年10月号(<http://www.projectdesign.jp/201610/create-the-future/003206.php>)

●空間は基本的に変えられないものですが、変わっていく空間にはどういう意味や価値があると思いますか？

この問い自体が何故生まれてきたのかと最近は考えています。日本が世界に発信した建築界のムーブメントとしてメタボリズムという概念があります。日本の空間も、夏にはすだれをたらしたりと四季折々に変化しますよね。そもそも、「空間は動かないもの」という考えはある種のバイアスだということに立ち返らないといけないと思います。

●美とは何か

美とは「探求したくなる驚くべき事実」と考えています。こう考えた時、追求し続けたいためには常に変化し続けていなければいけません。そう考えると、変化し続けるワコールさんの空間は美しい。

●この空間の中でおもしろかった変化は何ですか

中央にあるグリーンのサークルゾーンです。これはある種のサインとして機能しており、外を歩いている人が入れそうだなと思える仕掛けがあると思います。また、人は建物の中に入って空間と自分自身の関係性を3秒で把握すると言われていています。そう考えた時に、この空間は意味に溢れていてすぐには把握できない面白さがあると思います。

●次に手を付けるならどうすれば魅力的になると思いますか

自分の部屋は自分が過ごしやすいように変えていきますよね。部屋の中で居心地がいい空間をつくることの延長線上と考えればよいと思います。人が座っていない公園はまったく落ち着きませんが、ドナウ川の土手とかはそれぞれがそれぞれの過ごし方をしており座りやすい。空間になんらかの磁場とベクトルがあると人は安心します。この空間も変化し始めてだんだん共通の磁場が発生してきていると思います。これからは場を保管するソフトコンテンツ、例えばカフェの店員さんの対応といったものが必要になってきていると思います。ソフトとハードを振り子のように順番に組み込んでいくといいと思います。

